

指導内容は診断名だけでなく子供の実態から総合的に考える

- 自立活動の内容の6区分 27 項目で中心的な課題を考えてみましょう。
- 中心的な課題を踏まえて、指導目標を見直します。
- 指導目標の達成に必要な区分・項目を選定し、それらを相互に関連付けて具体的な指導内容を設定します。

自立活動は、個々に異なる、障害による学習上又は生活上の困難（実態）を把握することから指導内容の検討がスタートします。診断名にとらわれず、自立活動の内容の6区分 27 項目で実態を捉え直し、中心的な課題を改めて考えてみます。必要があれば、指導目標を修正します。

自立活動の指導内容は、個々の子供の実態に応じて必要な項目を選定して取り扱うものであり、そのすべてを指導すべきものとして示されているものではありません。学習指導要領に示されている「内容」から必要な項目を選定し、それらを相互に関連付けて設定されます。

また、学習指導要領解説における指導内容例を障害種別に再整理した「第2章 理論・資料編 7. 自立活動の指導内容例」も参考にしてみてください。

例：自閉症のある子供

① 中心的な課題

※【 】は6区分 27 項目の内容を指します。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	<ul style="list-style-type: none"> ・ポジティブな感情もネガティブな感情も抑えることができず、すぐに行動にうつしてしまう【心(1)】 ・どの授業にも積極的に取り組もうとする【心(3)】 	<ul style="list-style-type: none"> ・思い通りにならないと、かんしゃくを起こしてしまう【人(1)】 			<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えることが難しい【コ(1)(3)(4)】 ・かんしゃくを起こすと、教師がいくら言葉がけをしても収まらない【コ(2)】

中心的な課題

学習意欲は高いが、思ったことをすぐに行動に移してしまいがちである。

自分の思いや考えを衝動的、あるいはかんしゃくといった行動で表現するため、相手に意図が伝わらずに注意されることが多い。

② 指導目標

長期目標（年間）	自分の思いや考えを相手に正しく伝えるための表現方法を身に付けることで、落ち着いて相手とコミュニケーションをとることができる。
短期目標（学期毎）	支援ツールを用いて、自分の思いや考えを相手に伝えようとするすることができる。

③ 具体的な指導内容

- ・単語カードや絵カード等の支援ツールを用いることで、相手に自分の思いや考えを分かりやすく伝えられることを知る。【人(1)、コ(2)(4)】
- ・発表場面では、ワークシートやメモ帳に一度、自分の伝えたいことを整理してから伝える。【心(1)、コ(4)】

【文献】独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2020）：リーフレット「自閉症のある子どもの自立活動の指導について考えよう！」。

よく一緒に読まれている Q

- Q10 「自立活動の時間は、学級の子供全員に同じ活動内容で集団指導してもよいのでしょうか？」
- Q11 「明日の自立活動の授業、どうしよう…」という日々です。計画的に指導するにはどうしたらよいですか？」
- Q25 「個別の指導計画の長期目標と短期目標を立てましたが、これでよいのか不安です…」